

ヌーヴェル・ヴァーグ年表(山田宏一著「増補友よ映画よ、わがヌーヴェル・ヴァーグ誌」(2002)巻末を参考)

年	月	ヌーヴェル・ヴァーグに関する項目	監督デビューリスト(フランス)	監督デビューリスト(フランス以外)
1945		アントレ・バザン著「映像本体論」	「美女と野獣」ジャン・コクトー(56歳)※共同監督: ルネ・クレマン(32歳)	(アメリカ)「ブルックリン横丁」エリア・カザン(36歳)
1946			「道化師の24時間」(短編)ジャン・ピエール・メルヴィル 監督(29歳)	(スウェーデン)「危機」イングマル・ベルイマン(28歳)
1947			「最後の休暇」(長編)ロジェ・レナール(44歳)	
1948	3	アレクサンデル・アストリュックが「カメラ三万年筆論」を提唱		(日本)「花ひらく」市川崑(33歳)
1950	5	「ラ・ガゼット・デュ・シネマ」誌創刊(11月、5号で 廃刊)編集同人に、エリック・ロメール、ジャン＝リュック・ ゴダール、ジャック・リヴェットら		(アメリカ)「危機の男」リチャード・ブルックス(38歳) (イタリヤ)「ある恋の記録」ミケランジェロ・アントニオーニ (38歳) (ポーランド)「村の水車小屋」イェジー・カワレロウツチ (28歳)
1951	4	「カイエ・デュ・シネマ」誌創刊。アントレ・バザン、 ジャック・トニオル＝ヴァルクロースが編集長就任		(日本)「愛妻物語」新藤兼人(39歳) (イタリヤ)「寄席の脚光」フエリコ・フェリーニ(31歳) ※共同監督アルベルト・ラウアーダ(37歳)
1952	5	「カイエ・デュ・シネマ」誌と敵対する「ポジティブ」誌 創刊	「恋ざんげ」アレクサンデル・アストリュック監督 「彫像もまた死す」 アラン・レネ、クリス・マルケル共同監督	(日本)「鳩」野村芳太郎(34歳) (日本)「息子の青春」小林正樹(35歳) (アメリカ)「恐怖と欲望」スクリュー・キューブリック(24歳) (イギリス)「三文オペラ」ピーター・ブルック(29歳)
1954	1	フランソワ・トリュフォーが「カイエ」31号に「フランス映画の ある種の傾向」と題する論文を発表。伝統的な 「良質の映画」を完全否定し、「新しい映画」を求 めるマニフェストとなる。 7 インドシナ戦争休戦 12 アルジェリア戦争勃発	「ラ・ホ・アント・ケールト」(長編) アニエス・ヴァルタ監督(25歳)	
1955			「夜と霧」(短編)アラン・レネ監督 「不運なめぐりあい」(長編) アレクサンデル・アストリュック監督(31歳)	(日本)「あすなろ物語」堀川弘通(39歳) (日本)「教室の子供たち」(短編)キム・ムンタリー (日本)「狂った果実」中平康(30歳) ※フランソワ・トリュフォーが激賞。 (イギリス)「ママが許してくれない」(短編) カレル・ライス(30歳)トニー・リチャードソン(28歳)
1956		この年、5人の新人監督が長編第一作を撮る。	「素直な悪女」 ロジェ・ヴァアタイム監督(28歳) 「北京の日曜日」(短編) クリス・マルケル監督 「ロワール渓谷の木靴作り」(短編) ジャック・トウミ監督 「王手飛車取り」(短編) ジャン＝リュック・エット監督 「ニューヨークの印象」(短編) フランソワ・レシエンバック監督	
1957	5	「カイエ」誌71号が「フランス映画の現況」を特集。	「あこがれ」(短編) フランソワ・トリュフォー監督	(日本)「くちづけ」増村保造(33歳) (日本)「俺は待ってるぜ」蔵原惟繕(30歳) ※助監督・神代辰巳
10		「レクスプレス」紙でフランソワーズ・シルー女史が「ヌーヴェル ・ヴァーグ(新しい波)」と題して戦後のフランスの若者に ついて一大アンケートを行う。 ※「ヌーヴェル・ヴァーグ」という言葉の誕生。	「男の子の名はみなパトリックというの」 (短編)ジャン＝リュック・ゴダール監督 「陶醉さえすりや」(短編) ジャン＝ダニエル・ホル監督	(アメリカ)「十二人の怒れる男」シドニー・ムルメット(33歳) (アメリカ)「孤独の青春」ジョン・フランケンハイマー(27歳) (アメリカ)「暴力波止場」マーティン・リット(37歳)

年	月	ヌーヴェル・ヴァーグに関する項目	監督デビューリスト(フランス)	監督デビューリスト(フランス以外)
1957		この年、13人の新人監督が長編第一作を撮る。	「ホケットの恋」(長編) ピエール・カスト監督(37歳) 「美しきセルジュ」(長編) クロード・ジャブロー監督(27歳) 「死刑台のエレベーター」(長編) ルイ・マル監督(25歳)	
1958	6	ドゴール、フランス共和国大統領に。	「ゴハ」(長編) ジャック・バラン監督(40歳) 「壁にぶつけた頭」(長編) ジョルジュ・フランジュ監督(46歳) 「ハリはわれらのもの」(長編) ジャック・リヴェット監督(30歳) 「二十四時間の情事」(長編) アラン・レネ監督(36歳) 「いとこ同志」クロード・ジャブロー 「恋人たち」ルイ・マル 「大人は判ってくれない」(長編) フランソワ・トリアフォア監督(26歳) 「私は黒人」(長編) ジャン・ルージュ監督(41歳) 「照準線」(長編) ジャン・タニエル・ホル監督(22歳)	(日本)「結婚のすべて」岡本喜八(34歳) (日本)「青春白書・大人には分らない」 須川栄三(28歳) (日本)「若い獣」石原慎太郎(26歳) (日本)「盗まれた欲望」今村昌平(32歳) (アメリカ)「左ききの拳銃」アーサー・ペン(36歳)
1959	3	「いとこ同志」がベルリン映画祭グランプリ受賞。 「二十四時間の情事」がカンヌ映画祭国際批評家大賞受賞。 「大人は判ってくれない」がカンヌ映画祭監督大賞受賞。 この年、22人の新人監督が長編第一作を撮る。	「黒いオルフェ」マルセル・カミュ 「獅子座」(長編) エリック・ロメール監督(39歳) 「唇によだれ」(長編) ジャック・トニオル＝ヴァルクローズ監督(39歳) 「勝手にしやがれ」(長編) ジャン＝リュック・ゴダール監督(29歳) 「恋の戯れ」(長編) フリップ・ト・ブロー監督(26歳)	(日本)「愛と希望の街」大島渚(27歳) (アメリカ)「アメリカの影」ジョン・カサヴェツス(30歳) (イギリス)「怒りをこめて振り返れ」(長編) トニー・チャートン(31歳)※脚本:ジョン・オスボーン
1960		アメリカ「ライフ」誌が8ページに渡る「新しい波」特集掲載 ジャン＝リュック・ゴダール監督「小さな兵隊」がアルジェリア戦争批判と兵役回避擁護のことで公開禁止(1963年1月まで) この年、44人の新人監督が長編第一作を撮る。 ルイ・マル「地下鉄のサン」 フランソワ・トリアフォア「ピアニストを撃て」	「顔のない眼」ジョルジュ・フランジュ 「オルフェの遺言」ジャン・コクトー 「かくも長き不在」(長編) アンリ・コルビ監督(39歳) 「ローラ」(長編) ジャック・トウミ監督(29歳) 「アデュール・フィリス」(長編) ジャック・ロジェ監督(34歳) 「人間の特性」(長編) クロード・ルルーシュ監督(24歳) 「金色の眼の女」(長編) ジャン＝ガブリエル・アルビエ監督(24歳)	(日本)「恋の片道切符」篠田正浩(29歳) (日本)「彼女だけが知っている」高橋治(30歳) (日本)「ろくでなし」吉田喜重(27歳) (日本)「明日はいっぱいの果実」斎藤正夫(29歳)※共同脚本:山田太一 (日本)「悪人志願」田村孟(27歳) (日本)「武士道無残」森川英太郎(29歳) ※助監督:森崎東 (イギリス)「土曜の夜と日曜の朝」(長編) カレル・ライス(34歳)※脚本:アラン・シット
年	月	ヌーヴェル・ヴァーグに関する項目	監督デビューリスト(フランス)	監督デビューリスト(フランス以外)

1960			「挫折」(長編) フランソワ・テルリエ監督(30歳)※ロベール・ブレンソン監督「抵抗」(55)の主演者	
1961	「かくも長き不在」がカンヌ映画祭グランプリ受賞。 アラ・レネ監督「去年マリエンバートで」がヴェネチア映画祭グランプリ受賞。 クリス・マルケル監督「ある戦闘の記録」がベルリン映画祭グランプリ受賞。 アンナ・カレーナが「女は女である」でベルリン映画祭主演女優賞受賞。 この年、5人の新人監督が長編第一作を撮る。		「女は女である」ジャン＝リュック・ゴダール 「ふくろうの河」(短編) ロベール・アンリコ監督 「勝負をつけろ」(長編) ジャン・ベツケル監督(28歳)※ジャック・ベッケル監督の子息	「若い狼」恩地日出夫(28歳) 「日本」おとし穴」(長編)勅使河原宏(34歳) 「日本」愛する」上村力(31歳) 「日本」不良少年」(長編)羽仁進(33歳) 「イタリヤ」就職」エルマン・オルミ(30歳) 「日本」風来坊探偵・赤い谷の惨劇」深作欣二(31歳) 「イタリヤ」アット・ネ」ピエル・パオロ・パゾリーニ(39歳) 「アメリカ」荒野のガンマン」サム・ペキンパー(36歳) 「ソビエト」ローラとハイオリン」(中編)アントン・タルコフスキー(29歳) 「日本」梶」(短編)足立正生(22歳) 「フランス」欲望の浜辺」ルイ・ゲーラ(31歳) 「日本」キューホーのある街」浦山桐郎(32歳) 「ソビエト」少年と鳩」アンドレイ・ミハルコフ・コンチヤロフスキー(25歳) 「イタリヤ」殺し」ペナルド・ベルトルツチ(21歳) ※脚本:ピエル・パオロ・パゾリーニ 「アメリカ」40ホンドのトラブル」ノーマン・ジエイソン(36歳)
1962	ロベール・ブレッソン「ジャンヌ・ダルク裁判」がカンヌ映画祭審査員特別賞受賞。 アルジェリア戦争終結。 この年、20人の新人監督が長編第一作を撮る。 フランソワ・トリアフォア「突然炎のごとく」 ルイ・マル「私生活」 オムニバス映画「二十歳の恋」※日本編は石原慎太郎監督		「不滅の女」(長編) アラン・ロブ・グリエ監督(40歳) 「女はコワイです」(長編) ピエール・エテクス監督(34歳) 「シベールの日曜日」(長編) セルジュ・ブールギニオン監督(34歳) 「ヒットラーなんか知らないよ」(32歳) ベルラン・ブリエ監督(32歳) 「島の戦い」(長編) アラン・カヴァリエ監督(34歳) 「美しき人生」(長編) ロベール・アンリコ監督(31歳)	
1963	ジャン・コクトー「死去」(74歳)。 この年、12人の新人監督が長編第一作を撮る。 ルイ・マル「鬼火」がヴェネチア映画祭審査員特別賞受賞。 アラ・レネ「ユリエル」でテルフィニス・セリグが同主演女優賞受賞。		「ラ・ジュテ」(短編)クリス・マルケル監督 「モンソーのハン屋の女の子」(中編) 「ジュザンヌの生き方」(中編)ともにエリック・ロメール監督 ジャン・トウミ「シエルブルーの雨傘」 ジャン＝リュック・ゴダール「軽蔑」 「バナナの皮」(長編) マルセル・オフエルス監督(36歳)※マックス・オフエルス監督の子息 「さかさまの人生」(長編) フランソワ・エンゴア監督(31歳) 「キス・キス・キス」(オムニバス)ベルラン・ダヴァエルニエ(22歳)	「フランス」黒い神と白い悪魔」 クラウダール・ローンヤ(24歳)